

花物語通信

NO.47

2018年 1月

新年号



1月のトピックス

- ☆ 新春・縁起物語
- ☆ 12月開催特別講座を終えて
- ☆ 新連載「暮らし彩時記」
- ☆ スタッフ便り

明けましておめでとうございます。
2018年の幕開けに、皆様思い思いの願いを心に抱いて新しい年をお迎えのことと存じます。

平成になって30年。節目の年であります。その平成も来年4月末までと先頃決定し、今年半ばには新元号が公表されます。新しい時代へと移りゆく中、今年も皆様がたくさん素敵な「和心」と「真心」に出会えますように…。たくさんの幸せが訪れますように願っております。

本年も相変わらずのご愛顧の程、花物語をどうぞよろしくお願い申し上げます。

新春 縁起物語

今年は、十二支11番目の戌年です。干支の動物にはそれぞれ縁起話があります。戌(犬)の中でも賢い犬を指すそうである(犬の中で最も賢い犬を指すそうである)は、真面目で勤勉そして努力家であり、また安産祈願としてもよく知られています。



縁起やおもてなしの心を大切にする日本人ならではの文化が、私たちの普段の生活の中に浸透しています。各ご家庭でも何かしら縁起物が置かれているのではないのでしょうか。

お正月と言えば松竹梅。おせち料理も様々な縁起物が詰められていますね。食べてもおいしい鯛がおめでたいに通じるのはお馴染みです。赤くてゴロンとしたたるまは、勇ましい顔が印象的な願掛けの縁起物です。宝船に乗った七福神は、いかにもおめでたい感じがします。名前を挙げると、あと一人：二人が出てこなかったりします(笑)

手を挙げた仕草が愛らしいと外国でも人気の招き猫も、幸せを呼び込んでくれます。

もちろん、花にも縁起物があります。春を告げる花の一つである福寿草は、福を招く草として愛されています。金のなる木は、葉の形がお金に見えることから金運がアップするといわれています。そして、胡蝶蘭は幸せが飛んでくると言われる幸運の花です。

数ある縁起物や縁起話。それらを暮らしの中に取り入れ、こころがほっこりするようなご縁と出会えたら、それはひとつの幸せとなりますね。

12月開催特別講座を終えて

フローラルガーデン小布施にて、12月のアレンジ講座「スワッグ製作」を行いました。流行のスワッグは「壁飾り」の意で、リースと似た意味合いを持ち、魔除けや福を呼びこむアイテムです。今回は生花で土台を作り、松笠やドライフラワーと装飾品で仕上げましたが、飾りを変えたり水引を付けるとお正月も飾れます。海外では一年を通して季節の花々を束ねて玄関に飾っています。普段のオアシスを使ったアレンジ講座とは違い、枝を



まとめて装飾品を付ける工程は慣れない作業でしたが、お隣同士確認しながら丁寧に仕上げたスワッグはホリデーシーズンを素敵に飾ってくれる作品になったことと思います。

また、フラワーアレンジメントでリフレッシュと題し、去る12月14日、山ノ内にて開催のアレンジ講座は「クリスマスマスとお正月、両方飾れるアレンジメント」という贅沢企画。当日の仕上げはクリスマス仕様でしたが、材料の枝を松に変え、飾りを変えたとお正月用になる仕組みです！ご自宅のどこに飾るかを考えながら製作されている教室内は会話も弾み、ご参加いただいた皆様の笑顔と、のびやかな作品が印象的でした。(報告 関さゆり)



〒383-0041 中野市岩船424-3 (西友前)

* TEL 0269-23-2380 * FAX 0269-23-2387 * E-mail hanaippai1187@gmail.com

* 営業時間 午前9:00~午後6:30 (日曜・祝日は6:00閉店) * URL <http://hanaippai.net/>

新連載

暮らし彩時記

No.1



日本には春夏秋冬の四季があり、更には一年を24節に分け季節の移りゆく小さな変化を、「立春」や「冬至」など美しい言葉で表現しているのが「二十四節気」です。

新たに始まりましたこのシリーズでは、小さな季節の移ろいをお届けします。

1月「睦月の章」

5日「小寒」寒の入りとも呼ばれ、節分までの期間を寒の内と言います。

20日「大寒」一年で最も寒い頃です。この寒さを活かした日本ならではの恒例行事が数々



あります。極寒の中で川や海に入る寒稽古や寒修行は、テレビで見ているだけでも震えますね。また、昔から味噌や醤油、日本酒の仕込みを行う時期ともされています。現在のように、空調や水の設備が整っていなかった時代には気温が低く雑菌の少ないこの季節の水が適していたようです。

外の寒さとは裏腹に、春の淡く柔らかい色の水仙やスイトピー、チューリップなどの可愛らしい花々が登場します。

2月「如月の章」

4日「立春」暦の上ではこの日から春ですが、まだまだ寒い日が続きます。

立春の後最初に吹く強い南風を春一番と呼びます。



19日「雨水」

それまでの雪が雨に変わり、氷が解けて水になる頃です。水で小さな春を感じる季節です。そして、三寒四温を繰り返しながら春に向かっていきます。ヒヤシンスや沈丁花など甘い香りの花々に心が癒されますね。

そして、この時期に咲く『冬アジサイ』を皆様ご存じでしょうか。

高級アジサイの産地として知られている群馬で開発、寒さに強く品種改良された冬アジサイは花の冠のような姿から、スプリングエングエルと呼ばれ、この季節と本来の梅雨の2度開花が楽しめます。春先には雪や氷を連想する透明感のあるほんのり淡いブルーや

ピンク、梅雨の季節はもう少し強く色づく花色をお楽しみいただけます。(記 吉田智子)



スタッフ便り

遅ればせながら、新春のお慶びを申し上げます。

一年を通じて、スタッフが日頃の思いを綴る『スタッフ便り』。年の初めは私、瀧澤がお届けします。

さて、皆様はどんな年末年始をお過ごしになりましたでしょうか。

仕事柄大晦日まで営業、3が日だけの休み...というスケジュールの私に、年末から元日にかけて日本各地の友人から、たくさんの特産品、お酒等、それぞれ心こもったメッセージと共に贈られてきました。昨今携帯やパソコンが普及し、年始の挨拶としての年賀状を書く人が激減し、宛先も印刷...という中、自筆の文字は温かみを感じますね。

IT化が進み、今まで人が手作業でしていたことをコンピュータが代行しても、植物や動物が人類に癒しや喜びを与え続けていくことは、この先も変わらないものひとつであると思います。26年目のスタートを切った『花物語』のテーマは、**「改革・改める」**。

時代の変化に対応しながら、大切なものは維持継続(改革・改める)そんなことを念頭に置きながら今年一年を飛躍の年にしてまいりたいと思います。

さて、2018年のラッキーカラーは『ピンク・オレンジ・ゴールド・シルバー』。暖かな太陽を連想する色。植物と共に伸びやかに逞しく心身ともに成長できますように、そして皆様の2018年が素敵な一年となりますように。



編集後記



年の瀬も迫った12月の終わりに、お付き合いされている方へのプロポーズに、赤いバラの花束を贈りたい、とひとりの男性が来店されました。

そして新年を迎え、花物語初売りの日にも男性が来店され、99本と1本の赤いバラの花束を同じくプロポーズに、とご予約いただきました。99本のバラは「永遠の愛」。1本のバラは「あなただけを」の気持ちが進められています。愛する人と結ばれる人生の大きな岐路に、花を通してお役に立てることはフローリストとして何よりも嬉しいことです。今年も花を通じて皆様幸せをお届けしてまいりたいと思います。